小坂町町勢要覧【2021年版】

# 百年のまち 千年のまち

秋田県
小坂町

小坂町は、秋田県の北東端に位置し、岩手、青森を含んだ北東北三県のほぼ中央に位置しています。町の北東部には国の特別名勝・天然記念物に指定されている十和田湖があり、豊かな自然に恵まれた地域です。

文久元年（1861）年に小坂鉱山が発見されて以来、経済や文化の発展は鉱山産業とともにありました。現在は、古くから培われてきた高度な鉱業技術を活用した金属リサイクル産業への転換がなされ、世界的視野での資源循環型産業の町として新たに注目されています。

本町では、発展の礎となってきた自然の恩恵や鉱山の町として生業を築いてきた知恵や技術が、地域の資源、特性として、人々の暮らしの中に連綿と受け継がれています。

# ひとと自然と文化を未来につなぐ

百年のまち千年のまち

豊かな自然があった。
緑の山々が隠すような青い巨大な湖は
火山の噴火によってできた十和田湖。
火山活動で地下には豊かな鉱物が潜み
鉱山ができてまちができた。
当時の建物は100年過ぎた今も現役だ。
先人が築いた大切なものを受け継ぎ
時代の変化に進化しながら
このまちは、未来へ続く。
次の百年も、千年も。

# 魅力あふれるまち

こうした豊かな自然と歴史・文化につつまれながら、新たなまちづくりでは、住み慣れた地域で健やかに生き生きと暮らせること、子どもたちが地域に支えられながら未来への希望を持って成長すること、まちの躍動、成長となる様々なつながりを築いていくことが求められています。

「町民が幸福で、暮らしに安心・魅力・楽しさのあるまち」、「風土を守り、躍動・成長を支えるまち」、「これからも住み続けたい、訪れたい、関わりたいまち」という3つのテーマをまちづくりの基本方針として位置づけました。

現在のまちや暮らしの中に共有財産として受け継がれている「ひと」、「自然」、「文化」の様々な魅力を地域の個性としてまちの発展に生かし、町民と共有しながら、「これからも住み続けたい」という誇りとして継承していくために、住む人が愛着を持ち、訪れる人が感動するまちづくりをめざします。

小坂町長　細越　満

## 目次


04　［ま　ち］―過去から現代、そして未来へ―
受け継がれる、大切なもの

05　鉱山の発展と歩んだ歴史と文化

06　自然に優しい資源循環のまち

07　十和田湖の豊かな自然と恵みを後世へ

08　［しごと］小坂の山ぶどうで小坂のワインをつくる
日本ワインへの挑戦

10　地域を活性化　自然を生かす小坂の産業

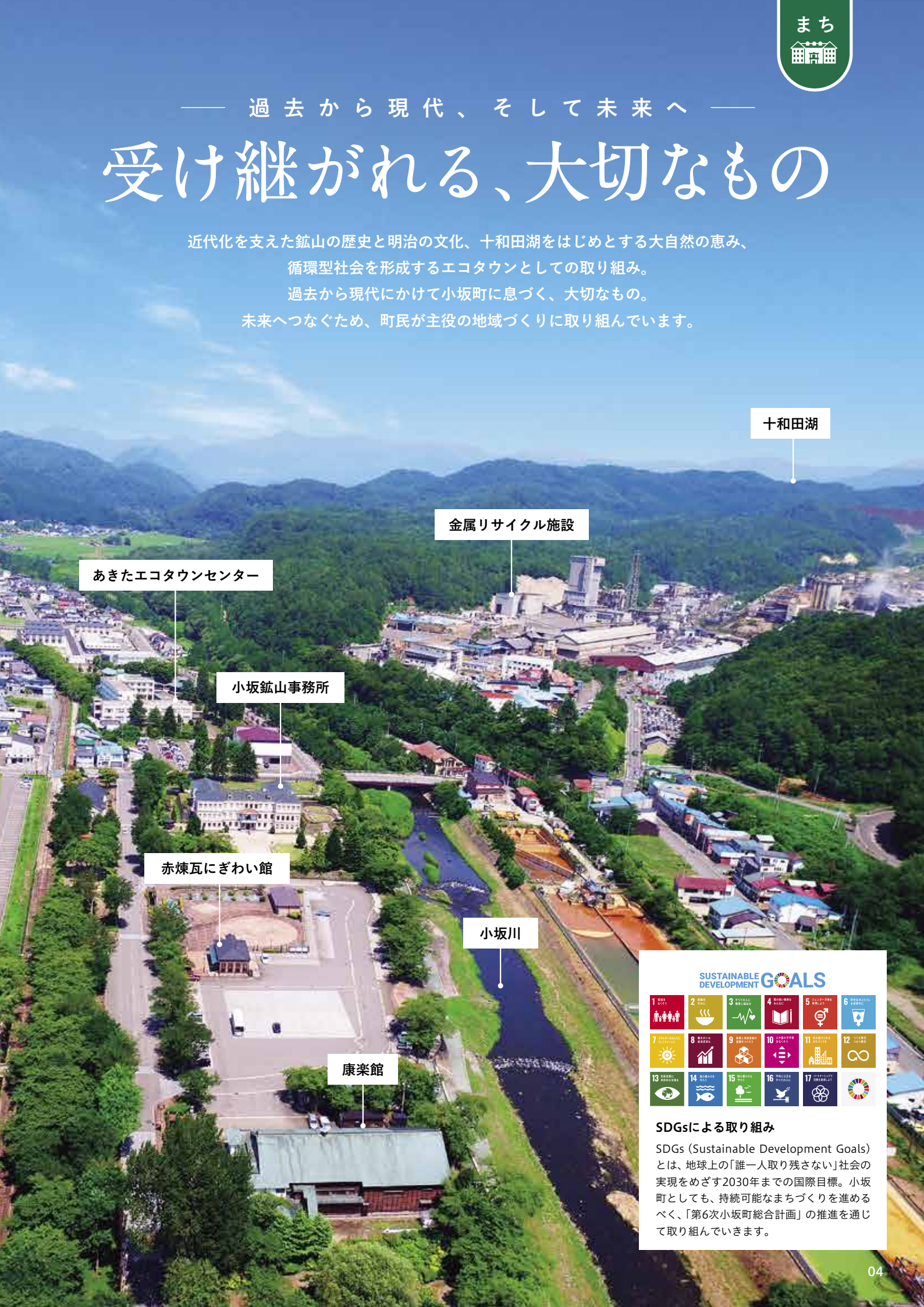
12　［ひ　と］誰もが笑顔になる 未来の小坂へ

18　小坂町プロフィール

過去から現代、そして未来へ

# 受け継がれる、大切なもの

近代化を支えた鉱山の歴史と明治の文化、十和田湖をはじめとする大自然の恵み、
循環型社会を形成するエコタウンとしての取り組み。
過去から現代にかけて小坂町に息づく、大切なもの。
未来へつなぐため、町民が主役の地域づくりに取り組んでいます。




### SDGsによる取り組み

SDGs（Sustainable Development Goals）とは、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現をめざす2030年までの国際目標。小坂町としても、持続可能なまちづくりを進めるべく、「第6次小坂町総合計画」の推進を通じて取り組んでいきます。

# 鉱山の発展と歩んだ歴史と文化

平成13年（2001）の移築当初から案内人を務める海沼さん

1階から3階まで続く優美な木造らせん階段

有志で作成された「ふるさとかるた」

町を歩き歴史を学ぶ「青空の博物館」

明治40年（1907）には鉱産額日本一を誇った小坂鉱山

小坂町観光案内人
歴史担当
**海沼 誠子**さん

## 近代化の礎をいち早く築いた小坂町のシンボル

日本三大銅山と呼ばれ、かつて日本一の鉱産額を誇った小坂鉱山を有する小坂町は、県内でもいち早く電気の供給や上水道が整備され、文明開化を突き進んでいました。その近代化のシンボルとして建てられた「小坂鉱山事務所」は、洋館の意匠を凝らして築かれ、現在は、国の重要文化財として多くの観光客が訪れるスポットとなっています。周辺には秋田県有数の総合病院「小坂鉱山病院」の記念棟や、坑夫の娯楽の場として建てられた木造芝居小屋「康楽館」（国重要文化財）などが立ち並び、当時の様子を感じることができます。

海沼誠子さんは、開館当初からここで案内人を務め、歴史的背景を説明しながら、館内や敷地内にある歴史的建造物を紹介する「青空の博物館」の案内を行っています。

## 「離れたくない」そう思ってもらえる町に

「この町では、後の日本の近代化に大きな影響を与える人物が数多く活躍しました。今の日本を形作っている人たちも、もとをたどると小坂町に行き着くのです」。海沼さんはガイドのかたわら、小坂の歴史や街並みを描いたふるさとかるたや漫談を作成し、町の成り立ちを後世に伝えていく活動を続けています。「ここに住む人に『この町がいい』『離れたくない』と思ってもらえるような町になってほしい」と話してくれました。

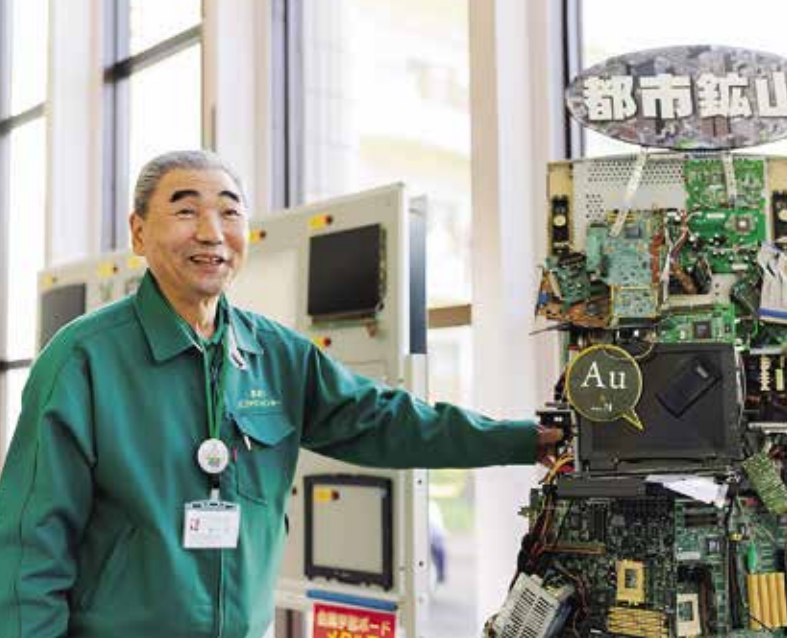
**【明治の建築群】**小坂鉱山事務所と合わせ、明治時代の暮らしが身近に感じられる建築物を紹介します。

### 康楽館

明治43年（1910）に創建された和洋折衷の木造芝居小屋。鉱山従業員の福利厚生施設として開設され、「働き方改革」を導入する先駆けとなった施設です。現在でも常打芝居や歌舞伎公演が行われています。

### 小坂町赤煉瓦（れんが）にぎわい館（赤煉瓦倶楽部）

明治百年通りの中で最も古い、明治37年（1904）に建築された「旧小坂鉱山工作課原動室」を移築・復原した建物。世界遺産・富岡製糸場と同様の木骨煉瓦造であり、国の重要文化財として現役で保存・活用されています。



平成21年（2009）エコタウンセンター設立当初から案内人を務める澤口さん

# 自然に優しい資源循環のまち

あきたエコタウンセンター案内人の会
**澤口 弘**さん

## リサイクル原料から金属を鉱山の技術を次の世代へ

明治33年（1900）、当時は困難とされていた黒鉱（くろこう）から金属を取り出す技術「自溶製錬」の試験に成功した小坂鉱山。その後は高い技術と突出した産出量で、明治40年（1907）には鉱産量日本一を記録し、日本の近代化を支え続けました。

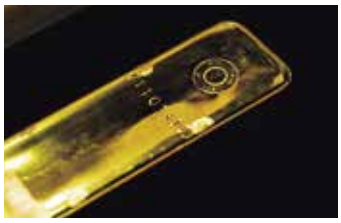
鉱山閉山後は製錬で培った技術を生かし、「都市鉱山」と呼ばれる使用済み携帯電話や電子基板からの金属回収や、廃棄物の処理などを行っています。平成19年（2007）には、日本でただ一つの金属リサイクル専用炉「TSL炉」が導入され、鉱山の町からリサイクルの町へと転換を遂げました。

## この町から全国に循環型のまちづくり

最先端のリサイクル技術を生かした環境にやさしいまちづくりを進め、全国に先駆けて都市鉱山・循環型社会の構築をめざした小坂町。「あきたエコタウンセンター」では、廃棄物ゼロをめざす秋田県北部の取り組みの紹介をはじめ、小型家電の回収や3Rの普及などを行っています。案内人を務める澤口弘さんは、長年技術者として製錬業に携わっていた経験を生かした案内に定評があります。「この町のなりたちを通して『あなたならどう感じるか』を問いかけるのがこのセンターの目的です。日本のリサイクルを支える町として、次の世代に伝える活動を続けていきたい」と話してくれました。

日々鋳造の技術開発が行われている

2階の研修室での説明


都市鉱山から生まれた金の延べ棒

世界屈指の技術力で、リサイクル原料から20種類の金属を取り出すことが可能

## 誓いの記念碑

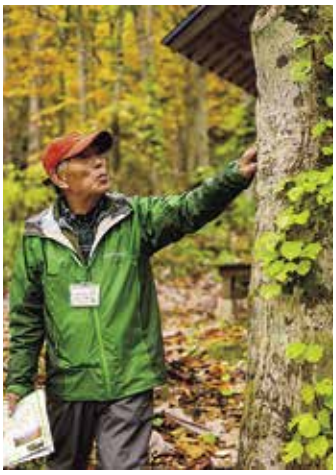
鉱山発展の陰で立木の大量利用や煙害、廃棄物などで小坂の豊かな自然を「黒い丘」に変えてしまったことを教訓に、環境にやさしい資源循環型社会の構築をめざす誓いを込めて、平成18年（2006）に建立されました。

## 金属鉱業研修技術センター（あきたエコタウンセンター）

施設内の複数の機関が連携し、資源リサイクルに関する研究開発や環境教育などを行っています。実際の鉱物の展示や、案内人によるリサイクルヤードの見学を通して、製錬の流れを身近に感じることができます。

# 十和田湖の豊かな自然と恵みを後世へ

秋田県と青森県の県境にある十和田湖。最大水深は327mで、日本で3番目に深い湖



平成23年から案内人を務める松山さん

西湖畔遊歩道脇に建てられた礼拝堂

強風の中で育つダケカンバの皮

十和田湖西湖畔遊歩道脇の桟橋。湖底に広がる緑色凝灰岩を間近で見ることができる

小坂町観光案内人
自然担当
**松山 繁**さん

## エメラルドグリーンの水面と四季折々の絶景

全国に37か所ある湖の中で唯一「特別名勝及び特別天然記念物」に指定されている十和田八幡平国立公園「十和田湖」。数度の火山の噴火により陥没して出来た二重カルデラ湖で、延喜15年(915)に起きた最後の噴火により、今の十和田湖が形成されたと言われています。

湖底には緑色凝灰岩(グリーンタフ)が広がり、透き通ったエメラルドグリーンの水面を眺望することができます。周辺には豊かな木々が生い茂り、新緑、紅葉、雪景色と、一年を通してさまざまな彩りで人々を魅了しています。

## 健やかに成長し続ける多様な木々と豊かな生態系

「豊かな自然はもちろん、噴火を重ねて縞模様になった地層や地形を間近で観察することができるのも十和田湖散策ならでは」そう話すのは案内人の松山繁さん。

「十和田湖周辺地域は、標高や湿度の差により成育する樹木が異なります。鉛山峠周辺には、油分を多く含むダケカンバやしなりが強く枝の折れにくいブナが成育。標高の低い西湖畔遊歩道には、トチノキや樹齢1000年を超えるカツラの巨木が一面に広がっています」。

松山さんが所属する小坂町観光案内人協議会では、毎年登山道の刈り払いや、ベンチ・看板の補強などを行っています。野生の動物や植物を大切に守りながら、登山者が歩きやすいよう環境の整備を続けています。

## 十和田湖ヒメマス物語
### —われ、幻の魚を見たり—

十和田湖の名産「ヒメマス」は一生を湖で過ごすサケ科の魚です。かつて十和田湖には食用の魚が生息しないと言われましたが、「湖畔に住む人においしい魚を食べさせたい」と和井内貞行が明治17年(1884)に放流を開始。20年以上試行錯誤を繰り返し、明治38年(1905)、ついにヒメマスの養殖に成功しました。その後増殖事業を引き継いだ「十和田湖ふ化場」ではヒメマスの採卵やふ化を行い、毎年約70万匹の稚魚を十和田湖へ放流しています。

しごと

# 小坂の山ぶどうで小坂のワインをつくる

## 日本ワインへの挑戦

**町の中心地から十和田湖に続く樹海ラインの周辺にぶどう畑が広がっています。ぶどう生産から始まった小坂町の日本ワイン。行政と町民が力を合わせ、町内外のファンを増やしています。**

ゆくゆくは観光農園も兼ねたいというワイナリーのぶどう棚。縄文時代にも自生していた山ぶどう系品種にこだわり、小坂町ならではの日本ワインを生産している

### 火山灰土を生かすぶどう栽培

小坂町のぶどう栽培は遊休農地を生かす手段として、鴇（ときと）地区で住民が話し合ってスタートしました。十和田火山の噴火によって堆積した火山灰土の大地は水はけが良く、環境に合うから山ぶどう系品種は育つと聞き、故・澤登晴雄氏が開発した苗を分けてもらい、昭和63年（1988）から垣根方式で自根栽培を始めました。

しかし花がついても実がつかない、そんな年が続きました。棚方式に変えたり、県内のぶどう栽培先進地・横手市の人たちに教えてもらったり、8年経ってやっと満足できるくらい実がつくようになりました。

いまではぶどう生産者が自分たちのぶどう園で、ぶどう販売も行っています。販売期間を延ばすために多種多彩な品種を育て、珍しいぶどう、おいしいぶどうを目当てにファンも増えています。

### 希少な日本ワインの産地誕生

鉱山に代わる産業をめざし、町が「小公子」「ワイングランド」などワイン用ぶどう栽培に力を入れ出した当初からワイナリーの構想がありました。それを実現させる「小坂七滝ワイナリー」が誕生したのは平成29年（2017）。その2年前に国内醸造の国産ワインのなかでも、日本のぶどうで醸造するわずか17％（平成30年度国税庁データ）の「日本ワイン」をラベル

こだわりのワインをつくる小坂七滝ワイナリーは、七滝の向かい、十和田湖に近い自然のなかにある

記載できるルールが決まったことは、差別化を図る上で町の追い風となりました。

小坂町のワインづくりにはソムリエのアドバイザーがついていて、「こういうワインをつくろう」とめざす味を決めて醸造していきます。作り手目線ではなく、消費者目線に立っているのが町のワインの強み。小さなワイナリーで小回りが利くことを生かし、14種類以上のワインを製造しています。

## 未来へ続くワインのちから

ぶどう生産からワイン生産、町は次の仕掛けに取り組んでいます。観光地の十和田湖のホテルや店のほか、町の飲食店でもワインを取り扱う計画で、和食やホルモンの店で、ソムリエとワインに合うメニューを発見しながら連携を図っています。山ぶどう系の酸味のある小坂のワインには、もずく酢やお刺身などもマッチ。ワインと料理のマリアージュは、人に感動を与えるもの。観光客だけでなく、町民や仕事で訪れる人にも楽しんでもらえる環境づくりを始めています。

さらに小坂町のワインを広めるため、首都圏在住のファンと交流するオンラインイベントなども開催。ワインファンが小坂町を訪れ、ぶどうの風景や冷涼な風を楽しんだり、同じ場所で採れる野菜や肉を味わったり…。ワインツーリズムという新しい旅のスタイルを楽しむ日も来るでしょう。ぶどう農家、醸造家、町の夢の熱量が産業の枠を越え、ファンも巻き込み、小坂町の未来という実りへつながっています。

赤くて小さい山ぶどう品種「小公子」の単一品種で作るワイン「小公子」は深い赤紫や、酸味のある味わいが山ぶどうらしいワイン

ぶどうの葉がそのまま日よけになったぶどう農園の直売所。珍しい品種がいろいろ並び、秋を楽しませてくれる

季節や品種などに合わせ、多種多彩に展開し、14種類前後の商品が並ぶ小坂七滝ワイン

interview

## 自分がおいしいと思うぶどうを作っています。

**宮舘文男さん・ヒデ子さん**

ぶどう栽培を始め、もう30年が過ぎました。ぶどうの木の寿命は20年といわれますが、まだそのころから育てている木もあります。いまは8割がワイン用で、2割が食用です。「ハニージュース」「紅伊豆」など20種類ほど作っています。食べておいしくないと、ワインもおいしくないんです。葉の色や状態で何が足りないか、ぶどうを見ながら肥料を与え、うまいワインのための、うまいぶどうを作っています。

周辺の仲間の取りまとめ役として小坂町のぶどう生産、ワイン生産を支えてきた宮舘さんご夫妻。9月末の取材の日は主力のワイングランドが今秋最後の収穫となった

地域を活性化

# 自然を生かす 小坂の産業

豊かな自然を有し、鉱山の町として栄えてきた小坂町。特色ある産業や観光資源を生かし、雇用・起業を創出します。

道の駅「こさか七滝」

## 十和田湖とつながる二つの「道の駅」

「日本の滝百選」の七滝を望む、「道の駅こさか七滝」(愛称：ハートランドこさか)。県道2号線(通称：樹海ライン)の沿線にあり、十和田湖と小坂町の中継地点として賑わっています。

さらに広域観光ルートの確立、十和田湖和井内エリア整備事業の一環として、令和5年(2023)には、十和田湖和井内地区に新たな「道の駅」が誕生。国道103号と454号の交差地点に位置するため、県内外からの観光客の交流拠点として期待されます。また、大雨などの災害時における一時避難などを目的とした防災機能も併せ持ちます。

七滝

十和田湖地区「道の駅」

## グリーンツーリズムで小坂町の文化と自然を体感

小坂町では、都市住民が町に滞在し、自然や文化、人々との交流を楽しむ「グリーンツーリズム」を推進しています。

グリーンツーリズムの代表的な施設の一つが「小坂鉄道レールパーク」。旧小坂鉄道の線路と設備を利用し、「観て・学んで・体験できる」レール遊びの複合施設として、平成26年(2014)にオープン。翌年からは、昭和45年(1970)から44年間、上野～青森間を結んだ寝台特急を宿泊施設として改築した「ブルートレインあけぼの」の営業を開始しました。

この事業を通し、町ならではの多様な特産品、近代化産業遺産群、宿泊施設を活用し、文化体験の機会を多くの人に提供していきます。

康楽館

小坂鉄道レールパーク

# 農林水産物をブランド化、住民とともに地域づくり

## 清らかな水で育った小坂の宝物

十和田湖ひめます

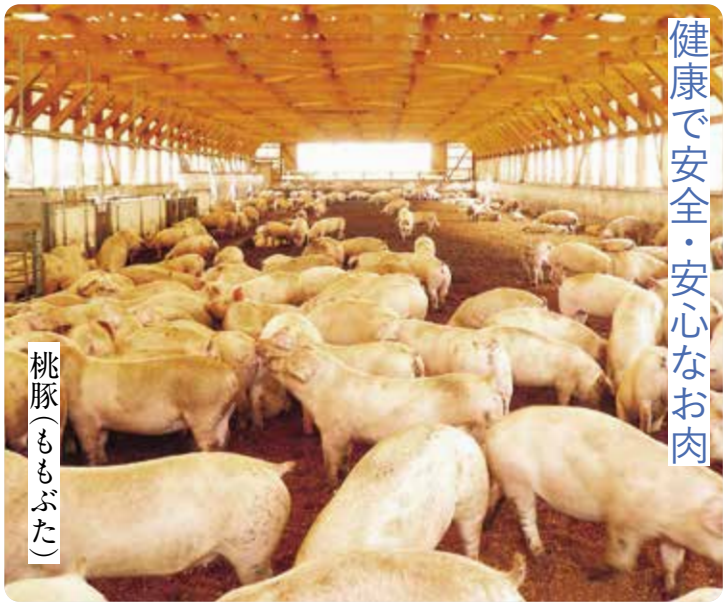
明治時代、和井内貞行氏が生涯をかけて養殖に取り組み、定着させたという歴史を持つ「十和田湖ひめます」。平成27年（２０１５）に地域団体商標に登録され、姿・色の美しさは高い評価を受けています。現在は捕獲だけでなく、放流式などのイベントを通し、ふ化事業や稚魚の放流を行うなど、そのブランド化と資源保護に取り組んでいます。

## はちみつの王様にふさわしい上質な甘み

アカシアはちみつ

鉱山の町として栄えた小坂町でしたが、煙害によって山々から緑が失われました。緑を取り戻すため、明治42年（１９０９）に初めて植栽されて以来、現在は町内に約３００万本群生しているといわれる「ニセアカシア」。花が一斉に開花する6月には町全体がその甘い香りに包まれます。その花から採れる良質なはちみつは、糖度、透明度、味、香りがそろっており、住民の努力と自然の恵みからできた人気ある小坂町の名産品です。

## 健康で安全・安心なお肉



桃豚（ももぶた）

小坂町にある４つの農場で飼育されたブランド豚。豚特有の病原菌を持っていないことに加え、食の安全を追求した環境で生育されるため、淡い桃色の肉は柔らかくジューシー。県内はもとより、首都圏でも人気の高い町の特産物です。近年は「小坂町かつらーめん」で親しまれており、小坂の新名物として観光客に喜ばれています。

# 誰もが笑顔になる未来の小坂へ

## 将来像実現のための基本目標

「ひとと自然と文化を未来につなぐ魅力あふれるまち」を実現するために、
第６次小坂町総合計画で掲げている５つの目標を紹介します。

Iターンのわたしも

Uターンのわたしも

小坂町が好き！

緒方 瑛さん

東京都育ち。23歳。令和２年から「小坂町地域づくり協力隊」として勤務。
ワイン事業から興味を持ち、この町に移住を決めました。冬の寒さは厳しいですが、周りの人たちの手助けをする中で、町の環境や仕事に慣れてきました。協力隊として効率良く仕事をこなすことが今の目標です。

成田 大祐さん

小坂町出身。27歳。 令和3年に北海道からUターンし、ワイナリーで勤務。
この町の強みは、数々の遺産が現在進行形で稼働していることだと思います。これからは、仕事を通して「人を迎える」だけでなく「人に仕掛ける」ことを意識して、様々なアクションを起こしていきたいです。

※年齢は取材時のもの

将来像実現のための基本目標 1

# 健やかに自分らしく生きるまち

健康・保健衛生／高齢福祉／障がい福祉／子育て支援・児童福祉／地域福祉／医療／保険・年金

健康寿命の延伸に向けた取り組みの推進、身近な地域での救急・高度医療の確保、一人ひとりのスタイルに合わせた相談・給付等の支援充実を図り、誰もが健やかに自分らしく生きるまちをめざします。

## 保健・医療・福祉

国民健康保険保健事業（ヘルスアップ講座）

小坂町診療所

健康診査等の充実

お元気くらぶ

保育料無料化

1保健師の個別指導やエクササイズで、心身ともに豊かな生活を支援 2町民の健康を守るための医療サービスを提供 3各種検診・予防接種などの機会を提供し、積極的な受診勧奨を実施 4身近な居場所の創出等、生きがいを持つことができるように支援 5町内在住の小学校就学前幼児の保育料（保育園利用料）を無料化

### 主な目標指標

● 地域の医療機関・診療体制満足度
（満足している・比較的満足している）

▲ 40.0%
（2019年 22.6%）

● 地域とつながりを持って暮らせていると感じる町民の割合
（とてもそう思う・どちらかといえばそう思う）

▲ 70.2%
（2019年 54.7%）

● 健康づくりにつながる居場所への参加者数（累計）

▲ 3,800人
（2019年 3,522人）

将来像実現のための基本目標 2

# 豊かな心と未来を育む人づくりのまち

幼児・学校教育・青少年健全育成／生涯学習／スポーツ・レクリエーション／地域の歴史・文化／国内・国外交流

子どもの個性に応じた教育に努めるとともに、学校・家庭・地域の連携を推進します。また、地域や世代を超えて集い、郷土文化の継承活動やスポーツ活動を行い、まちの未来をつなぐ人づくりをします。

## 教育・文化

学校給食費の助成

小坂小・中学校ステップ学団

KOSAKA アカシア スプリント大会

小坂図書館「おはなしランプ」

AKITA INAKA SCHOOL

1 保護者の負担を減らす、児童生徒の特性に応じた支援を実施 2 小中一貫教育を生かした様々な教育プログラムを実施 3 町内外から多くの参加者が集い、スポーツを通した交流を実施 4 毎月1回、絵本の読み聞かせや工作で楽しい時間を過ごしています 5 外国人が日本語のみならず、日本文化を学べる環境を提供

### 主な目標指標

- 体育施設利用者数

▲ 48,300人
（2019年 46,895人）

- 「授業に対する意欲」が「十分にある」と回答した児童生徒の割合

▲ 60％
（2019年 54％）

- 国際交流事業への参加者数

▲ 350人
（2019年 312人）

将来像実現のための基本目標 3

# にぎわい・活気を興すまち

農林業・畜産業・水産業／観光業／商工業／雇用対策・新産業育成

農・商・工のバランスのとれた産業の振興を図るとともに、新たな生活様式に対応する働き方を推進します。また、豊かな自然、鉱山の町として育まれた文化、地域資源を生かした観光の振興に努めます。

## 産業振興

小坂町観光案内人 育成講座

七滝活性化拠点センター

雇用の創出

「十和田湖ひめます」放流式

1町内外の方々へのガイド育成を行い、文化の継承活動・生涯学習の機会として活用されています 2住民交流スペースや貸事務所を備え、地域コミュニティの振興に寄与 3町の将来を担う人材の確保、地元就職の促進を図ります 4「十和田湖ひめます」の安定的な漁獲量の確保をめざします

### 主な目標指標

● 製造品出荷額

▲ 263.90億円
（2018年 251.34億円）

● 地元企業への就職者数

▲ 80人
（2019年 68人）

● 町内観光客入込数

▲ 1,000,000人
（2019年 882,000人）

将来像実現のための基本目標 4

# 自然とともに、これからも暮らし続けたいまち

土地利用・環境、景観の保全・循環型社会／道路・交通網・情報基盤／住環境・上下水道／空き家、空き地の利活用・移住、定住促進／消防・救急体制・防災・防犯・交通安全／雪対策

環境に配慮した土地利用を進め、循環型社会の形成に取り組んでいきます。また、災害や犯罪への備え、交通網の向上などを進め、移住・定住の促進とともに、安心して暮らし続けられるまちを作ります。

## 生活環境

1町へ新しい人の流れを起こすため、イベントの参加やツアーを開催 2突然の災害にも強い町をめざし、防災意識を高める取り組みを行っています 3 5つの分団が連携し、火災の防止に努めています 4町民と行政が協力した美化活動等で、過ごしやすい環境づくりを実施 5公共交通の利便性・維持を推進し、日常生活の移動に不安のない環境づくりをめざします

### 主な目標指標

● **移住者数**
（小坂町相談窓口の取り扱い）

▲ **10人**
（2019年 3人）

● **自主防災組織の組織率**

▲ **71.1%**
（2019年 38.9%）

● **リサイクル率**
※ごみ総排出量に対し、分別・選別処理等により資源化された割合

▲ **20.0%**
（2019年 13.87%）

将来像実現のための基本目標 5

# ともに明日を築くまち

地域コミュニティ・協働／人権・男女共同参画・結婚支援／行財政運営の効率化／広域行政・広域連携

性別や国籍、文化といった多様性を受け入れ、協働によるまちづくりを推進します。行財政については、職員一人ひとりが町民に信頼される行政運営に努め、町民とともに明日を築くまちづくりを進めます。

## 住民協働・行財政

1 2 3 町民が主役となり、植栽等の地域活動を行っています　4 人権問題の解消をめざし、人権について学ぶ様々な機会を創出　5 住み慣れた地域で、安全・安心に暮らしていくためのコミュニティの形成を促進

### 主な目標指標

- 審議会等での女性委員の割合

▲ 40.0%（2019年 16.9%）

- 地域課題の解決・地域活性化に取り組んだ事業数（累計）

▲ 12件（2019年 0件）

- 新たなコミュニティ生活圏の形成数

▲ 2件（2019年 0件）

クリスマスマーケット

小坂町マスコットキャラクター
「かぶきん」©小坂町

# 秋田県 鹿角郡 小坂町

## Data

**位置**（役場）
東経：140°44′ 12.1″
北緯：40°19′ 57.2″

**地勢**
東西：21.1キロメートル
南北：24.6キロメートル
面積：201.70平方キロメートル

**総人口**（2022年3月1日現在）
**4,771人**
男性：2,216人
女性：2,555人

**世帯数**（2022年3月1日現在）
**2,317戸**

## アクセス

### 自動車

東京（川口IC） ―東北自動車道 約6時間30分― 小坂町（小坂IC）

### 新幹線・電車

東京駅 ―東北新幹線 約2時間10分（最短）― 盛岡駅 ―いわて銀河鉄道（JR花輪線直通便） 約2時間20分― 十和田南駅 ―車 約20分― 小坂町

### 飛行機

東京（羽田空港） ―約1時間10分― 大館能代空港 ―車 約40分― 小坂町

### 高速バス

盛岡駅（西口） ―約1時間30分― 小坂町（小坂高校前）

東京（池袋） ―約8時間30分― 鹿角花輪駅前 ―秋北バス 約45分― 小坂町（康楽館前）

## Topics

### 手づくり郷土賞

平成18年（2006）、小坂鉱山事務所や康楽館が立ち並ぶ明治百年通りの整備が国土交通省の「手づくり郷土賞」を受賞。さらに令和3年（2021）には、観光振興への貢献が認められ、小坂鉄道保存会のレールパークでの取り組みが二度目の受賞を果たしました。

### 「日本で最も美しい村」連合

小坂町は、十和田湖の自然と歴史、近代化産業遺産群と循環型社会の融合を未来につなぐため、NPO法人・「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

https://utsukushii-mura.jp/map/kosaka/

### 秋田犬ツーリズム

AKITAINU TOURISM

秋田県北部の4市町村から成る地域連携DMO（観光地域マーケティング・マネジメント法人）です。温泉や食、体験など秋田の魅力を世界に向けて積極的に発信し、地域活性化をめざしています。

https://visitakita.com/

## 立ち寄り おすすめ スポット

和井内神社

ハートランドこさか


中小路の館


樹恩の鐘

七滝

小坂七滝ワイナリー


紫明亭展望台

## こさかの名物

かつラーメン

十和田湖ひめます

菜々の油

桃豚

ぶどう

アカシアはちみつ

小坂七滝ワイン

## イベントカレンダー

| | |
|---|---|
| 2月 | 十和田湖光の冬物語 |
| 6月 | ひめます稚魚の放流 |
| | 十和田湖山開き |
| | 小坂町アカシアまつり |
| 7月 | 十和田湖マラソン大会 |
| | 十和田湖湖水まつり |
| 8月 | 小坂七夕祭 |
| 10月 | 小坂・鉄道まつり |
| 12月 | クリスマスマーケット |

小坂町アカシアまつり

小坂七夕祭

ひとと自然と文化を未来につなぐ　魅力あふれるまち

秋田県
# 小坂町
Kosaka Town

## 町章

小坂町出身の福田豊四郎画伯の図案で、戦前から使用されています。中央の星形は小坂の「小」をイメージし、周辺の途切れたリングは鹿角郡の「鹿の角」を表したものです。

## 町の木・花・魚

### 【町の木】ベニヤマザクラ

十和田湖畔や山野に自生し、町民に広く親しまれています。オオヤマザクラの別名で、ソメイヨシノよりも花の色が濃いのが特徴です。昭和43年（1968）の5月に当時の国民宿舎十和田カルデラ周辺で、制定記念植樹が行われました。

### 【町の花】アカシアの花

明治42年（1909）に初めて植栽され、約300万本以上が群生しています。アカシアの香り漂う明治百年通りが平成13年（2001）に「日本のかおり風景100選」に選定されたことから、町のイメージにふさわしい花として制定されました。

### 【町の魚】ヒメマス

十和田湖のヒメマスが広い世代に認知度が高いこと、またヒメマスを十和田湖に放ち養殖した和井内貞行氏の努力と苦闘の歴史を大切にする心を醸成する意味から、町の魚として制定されました。

小坂町

〒017-0292
秋田県鹿角郡小坂町小坂字上谷地41-1
電話　0186-29-3901
FAX　0186-29-5481



発行　小坂町役場
印刷　川口印刷工業株式会社
発行日　令和４年３月


公式サイト
https://www.town.kosaka.akita.jp/

VEGETABLE OIL INK

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C023138